

## 安全な通学のために スクールバスの更新完了

学校の統廃合により通学区域が拡大し、遠距離通学の負担を軽減するためにも欠かせないスクールバス。市教育委員会では、老朽化が進んでいることから、平成30年度以降、毎年数台ずつ新車に入れ替えてきました。

この日、残り最後の3台が納車され、葛西教育長が座席や非常停止設備などを確認。2台は車力地区に、1台は稲垣地区に配備され、市教育委員会が保有する全てのスクールバスの更新が完了しました。5年間で入れ替えたスクールバスは全13台。総事業費は約2億7千万円になります。

更新を終えて葛西教育長は「子どもたちの登下校の安全を確保するため、計画的にスクールバスを更新してきた。ルールを守り、大切に長く使ってほしい」と話しました。



納車されたスクールバスの車内を確認する葛西教育長



1/12  
松の館

## 体の動かし方を学ぶ児童生徒たち

1/28  
柏総合体育センター



ラダー（はしご状の器具）を使いジャンプして進む参加者

NPO法人つがる市スポーツ協会（旧つがる市体育協会）は、県民駅伝競走大会に向けて「ジュニア駅伝強化クラブ」を立ち上げ、個々のレベルアップを図る活動をしています。

この日、インストラクターとして25年以上の経験を持つ平沢一臣さん（深浦町）を外部講師に招いて「基礎トレーニング練習会」が開かれました。小学3年から中学3年までの児童生徒たち22人が集まり、どのスポーツ競技にも通じる体の動かし方を平沢さんから熱心に教わっていました。

木造中3年生の金澤聖心君は「陸上部に所属していたが、今は受験勉強中。久しぶりに体を動かしてリフレッシュできた。大きく動くことを意識することが大事だと感じた」と話しました。平沢さんは「大人になると時間がかかるので、小中学生のうち体の動かし方を覚えてほしい」と期待しました。

## これからの農業に求められるものは セミナー開催

つがる市生涯現役促進協議会が「農業者・農業法人セミナー」を開催。参加した農業関係者は、つがる市の農業の現状や取り組みへの理解を深めました。

同協議会は、令和2年度から3カ年の事業計画で、年齢に関わりなく働き続けることができる生涯現役社会の実現に向けて、働く意欲のある55歳以上の高齢者を対象に、各種研修を開催してきました。事業最終年度の今回のセミナーは、「生業としての魅力ある農業～農業を持続的に発展させるには～」をテーマに、倉光市長が講演。令和4年8月の水害への対応状況、スマート農業・新規就農制度・水耕栽培メロンといった市の取り組みなどを紹介したほか、参加者と活発に意見を交わしました。

セミナーに参加した坂本清衛さんは「市の農業について詳しく聴けてよかった。農業者と市が、同じ目線で活発に話ができる機会をもっと作ってほしい」と話しました。



1/30  
松の館

参加者と意見を交わす倉光市長

## アイデア作品でにぎわう「くらしの工夫展」



2/1  
松の館

展示された料理とレシピに見入る来場者

第37回つがる市くらしの工夫展が3年ぶりに開催されました。展示コーナーには、市産の農産物を使った料理や農作業衣、稲わら工芸品、絵画など多彩な作品が陳列。このほか、地元農産加工品の販売コーナー、農業者年金や下水道の紹介コーナーなども設けられ、開催を心待ちにしていた人たちににぎわいました。また、大竹整形外科（青森市）の大竹進院長が「健康で長生きしよう！～膝と腰さえ治れば17歳～」と題して講演。来場者たちは膝や腰の症状などの解説に耳を傾けていました。

對馬きよさんは「袖なしプルオーバーと手さげバッグ」などを出展。多くの方が足を止め感心している様子に「身の周りにあるものを使って作っている。上手だと言ってもらえるとやりがいがある」と笑顔で話しました。

主催のつがる市生活改善グループ連絡協議会の中村嘉子会長は「コロナ禍のため出展数は少なくなったが、多くの方が協力してくれた。これからもがんばって続けていきたい」と話しました。

## 学童野球「つがる市選抜」全国大会での活躍を誓う

11月19日に福島県で開催された「第6回CBS少年軟式野球学童新人大会東北ブロック大会」で、「つがる市選抜」がBグループ1位となり、全国大会の切符を手に入れました。この日、チームメンバーが市役所を訪れ、倉光市長に東北大会の結果報告と出場する全国大会への抱負などを語りました。

向陽小5年生の境皇雅キャプテンは「“つがる魂”を見せつけ、全国につがる市の名をアピールできるよう全力で戦います」と抱負を語りました。

倉光市長は「よくぞ東北大会を勝ち抜いた。やるからには勝つ気持ちで、けがをせず思う存分戦ってきてください」と激励しました。

全国大会は3月31日～4月1日に、愛知県で開催されます。



2/9  
市役所

元気よくはつらつとした児童の皆さん

## 雪上かるた 冬を楽しむ園児

2/10  
銀杏ヶ丘  
こども園



絵札に向かって雪上を駆ける園児

銀杏ヶ丘こども園（稲葉綾子園長）で、雪上かるた大会が行われ、2歳児から年長児約70人が雪の感触とかるた遊びを楽しみました。

冬の体力づくりと遊びを通じて学ぶ力を育む活動の一環で、昭和58年から続く同こども園の恒例行事。絵札と読み札は、令和2年度の卒園児が制作したもので「いすにはきちんとしてすわろうね」といった園の生活で気を付けることなどが描かれています。

園長先生が読み札を読み上げると、園児は絵札に向かって一直線。雪山に並ぶ絵札を取り合いながら、歓声を響かせていました。かるた大会を終えた園児は「雪の中を走るのが難しかった」「かるた取れてうれしかった」と笑顔を見せました。